

宮城県総合教育センター一報



第10号



発行日 平成30年 7月25日
発行者 宮城県総合教育センター 所長 岡 邦広
〒981-1217 名取市美田園二丁目1番4号 ☎ : 022-784-3541

「新たな旅立ち」

所長 岡 邦広

はじめは「宮城県教育研究所」として、全国にまだ23カ所（県立等）しか設置されていない昭和24年から「みやぎの学び」を支え続けてきました。

ご承知のように「教育公務員特例法」の一部改正があり、教員の養成、採用、研修を通じた資質能力の向上に係る新たな体制を構築することが求められました。それに伴い、総合教育センターとして新たな歩みを始めて6年目の今年、発足時の3部10班から2部8班に組織改編しました。そして、これまで本庁の総務課や教職員課が実施してきた人材育成に関する研修をセンターに一本化して研究、研修、支援機能の

さらなる充実と強化を図ることになりました。

また、教員の養成、採用、研修を通じた資質能力の向上の取り組みの一つとして、今年度から新たなかたちで県内の大学と連携協力し、教職を目指す学生の養成を支援しながら、現職教員の専門性を高めることを目的とした研修会も実施しています。はじまりから数えて70年目も引き続き、教職員の「学びの拠点」として学校教育を支えて参ります。さらに、これからのみやぎの学校教育に関するシンクタンクとして、教育課題の解決に向けた方策等について調査研究を推進し、教育課題の解決、教育施策の提言、積極的な情報発信などにより学校を支援して参ります。

研究推進第一班より

「市町村教育委員会との連携による学校サポート事業」



総合教育センターでは、市町村教育委員会と連携して、児童生徒の学力向上、先生方の授業改善を支援する事業をスタートさせました。

今年度は、県内10の市町村（蔵王町、大河原町、角田市、多賀城市、亘理町、美里町、加美町、栗原市、登米市、気仙沼市）と連携して事業を実施しています。

本事業は、昨年度まで実施していた「学力向上サポートプログラム事業」とは異なり、市町村教育委員会のリクエストに応じて、オーダーメイドの研修を行うことを特徴としています。ですから、市町村ごとにサポート回数や内容は違ったものになっています。

具体的には、市内すべての中学校の国語科の先生方を対象とした学力向上に係る継続的な研修会、中学校区内の小・中学校が共通の学力向上の手立てを講じ、互いに授業を参観し、連携を深める研修会などをすでに実施しています。

今後も先生方を支援していけるよう、研修会を充実させていきたいと思っております。



教職研修班より

「防災主任研修会」から「防災教育の日常化」へ向けて

「防災主任研修会」では、慶應義塾大学環境情報学部准教授大木聖子先生から、「これからの地震防災教育～人を育む・未来をつくる～」と題しての講義をいただきました。

特に印象的だったのは、これまでの避難訓練の中で形骸化している部分はないか？との指摘です。「なぜ、地震の時、教員の指示で机に潜るの？（児童生徒の方が先に気付くのには）」「なぜ、校庭に避難するの？（校舎は耐震構造なのに）」等、見直すポイントを具体的に示していただきました。教員は「いま、なんのリスクから避難しているのか？」の把握が必要であるということに改めて気付く機会となり、防災主任の先生方は、納得したように頷きながら受講していました。何人かの防災主任の先生からお話をうかがいましたが、「早速、学校に帰り計画を見直したい」「この間避難訓練をしたばかりだったけど、確かに意味を考えていなかった。目から鱗が落ちた」等の言葉がありました。震災の経験のない子供たちがこれから増加していきます。震災の体験を風化させないように、防災教育の日常化を心がけ、命を守ることの大切さを児童生徒に自分の問題として考えさせなければならないのではないかと考えます。防災教育を通じた子供たちの人格的成長を願う、大木先生の志の高さに、受講生のみならず当センターの指導主事たちも大きな感銘を受けました。



特別支援教育班より

特別支援教育公開講座① 講演「頂点を目指して～一人一人の輝きを磨くために～」

講座の前半部分では、車椅子バスケットボールチーム宮城MAX元ヘッドコーチ、現在は日本女子代表チームの監督を務める岩佐義明氏より「頂点を目指して～一人一人の輝きを磨くために～」と題して講演をいただきました。



岩佐監督の情熱にあふれるお話の中で特に印象に残ったのは「一人一人の残された能力をどのように生かすか」という言葉でした。選手の能力を見極め、個性を生かすために練習内容や戦術をアレンジし、チームを強化していく指導法は、まさに一

人一人の輝きを磨くことそのものだと感じました。

講座後半では、宮城MAXの高橋浩則選手、菅原志朗選手にも加わっていただき、実際に体験会を行いました。ミニゲームでは、高橋選手の車椅子操作やシュートに歓声が上がりました。参加者チームもシュートを決めるなど体験会は大いに盛り上がりました。

参加者の皆さんからは「体験を通して、選手の目線を実感することができ楽しさや難しさを知ることができました」などの感想が寄せられました。今後も、パラスポーツを身近に感じられる講座を企画したいと思います。



情報教育班より

学情研賞 受賞

平成30年度第34回学習デジタル教材コンクール（公益財団法人学習ソフトウェア情報研究センター主催）において、情報教育研究グループが作成した教員の指導資料集「プログラミング教育スタートパック」が、最高賞に次ぐ「学情研賞」を受賞しました。応募総数約100件の中からの受賞です。

「プログラミング教育スタートパック」は、文部科学省が告示した学習指導要領にある「プログラミング教育を通じて目指す育成すべき資質・能力」を7つの要素に分け、プログラミング教育を取り入れた学習活動例や資料を、各教科等のねらいに即して実践できるように作成しました。

今後、県内の小学校教員が「プログラミング教育スタートパック」を活用していくことにより、小学校のプログラミング教育が推進され、児童の情報活用能力の育成が図られることを期待しています。

<最近の受賞>

- 平成29年 学情研賞「みやぎSNSナビゲーション」
- 平成28年 文部科学大臣賞 タブレット端末活用動画集「+（プラス）タブレ」
- 平成27年 学情研賞 タブレット端末の活用を中心とした実践ポイント集「今日の授業タプcciao（チャオ）！」



相談支援班より



りんくるみやぎ



不登校・発達支援相談室（愛称：りんくるみやぎ）では、幼児、児童生徒、保護者、教職員を対象に、不登校や学校不適応、発達の遅れや偏り等、子供の悩みについて、臨床心理士や電話相談員、指導主事が相談に応じています。（相談は無料）

～今年度4月から一部相談ダイヤルが変わりました～

「電話相談」については、年末年始を除く平日午前9時～午後4時（但し、24時間子供SOSダイヤルは年中休まず24時間対応）、以下のダイヤルで受け付けています。

発達支援教育相談ダイヤル 022-784-3565 家族や教員等からの障害及び発達の遅れや偏り等の相談	不登校相談ダイヤル 022-784-3567 家族や教員、相談員等からの不登校に関する相談
子供の相談ダイヤル 子供からの悩みごと相談 022-784-3568 家族や教員等からの子供に関する相談	24時間子供SOSダイヤル いじめ等、子供からのSOS 0120-0-78310 24時間いつでもつながります （但し、IP電話は除く）

「来所相談」「定期巡回相談」「発達支援要請教育相談」の詳細については、総合教育センターWebサイトの教育相談のページをご覧ください。

(<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/counsel/>)

◆トピックス◆

Mナビ

◇利用案内◇

雑誌コーナーには、4月から新収雑誌5誌が加わりました。新学習指導要領のポイントや実践報告等最新情報をチェックしてみませんか！

新収雑誌	出版社
学校運営	全国公立学校教頭会
総合教育技術	小学館
学校教育相談	ほんの森出版
生徒指導	学事出版
学校事務	学事出版

学校教育の専門雑誌29誌を取りそろえています。



学校教育・特別支援教育の図書・雑誌・DVDを貸出します。

- ▼貸出／3冊まで、貸出期間は2週間。
- ▼複写／著作権法の範囲内。1枚10円（白黒）。
- ▼返却／持参してください。代理の方も可。郵送可。休館時は「返却ポスト」（北側出入口）利用可。
- ▼開館／月～金曜日、9:00～17:00
- ▼土曜開館／8/4（9:00～16:00）
10/20（9:00～12:30）
11/10（12:30～16:00）
- ▼休館日／土・日曜日、祝日。※上記土曜開館日は開館します。
8/13(月)～8/16(木)、9/6(木)～9/14(金)

土曜講座

受付開始します（どちらも8/1から）

<miyagiTouchを使ってプレゼンテーションしてみよう>

- 1 日時 10月20日(土) 9:50～12:00
- 2 内容 講義・演習
- 3 定員 25人



タブレット端末のmiyagiTouchというアプリケーションを使ってプレゼンテーション（作成から発表まで）の体験ができる講座です。小学校・中学校・高校の児童生徒、教員、一般県民の方々を対象として実施しますので、多くの方々の参加をお待ちしております。

<特別支援教育公開講座②>

- 1 日時 11月10日(土) 13:00～15:30
- 2 内容 講演「脳の働きから見た発達障害～行動には理由がある～」
講師 東北福祉大学 准教授 黄淵熙氏
- 3 定員 200人



受付は先着順となりますので、お早目にお申込みください。詳細につきましては、当センターWebサイトの「土曜講座」のページをご覧ください。